

生徒数513名

風は未来を 6月号

「前向きに実践できる、みんなが元気な長野中」

サボテン実験

これから話す話は、正しいかどうかは分かりませんが……？

「サボテンは人の気持ちがわかる」という話を聞いたことありますか？

アメリカの大学で、サボテンに流れる電流を測定した実験があるそうです。部屋にたくさんサボテンの鉢を置き、Aさんが、その中の1つのサボテンの鉢を床に叩きつけて割ってしまいます。その時、他のサボテンたちの電流が激しく変化しました。Aさんが部屋を出て、Bさんが部屋に入ると、サボテンたちに流れる電流に変化はありません。次に、先ほどサボテンの鉢を割ったAさんが再び部屋に入ると、サボテン達の電流が激しく変化したそうです。



また、人の言葉がけによるサボテンの生育状況も調べました。

サボテンに向かって、毎日やさしい言葉「おはよう、今日も元気でね!」「いつも、キレイに咲いてありがとう!」などと声をかけるとスクスク育ち、反対に、「馬鹿。死ね。お前なんか大嫌い」などと声をかけたりしたサボテンは、可哀想なぐらい元気がなかったという実験結果でした。

不思議な話です。

人間にとって優しい言葉は、植物にも同じように“心地よい”と感じるのでしょうか？

私(校長)は、サボテン実験の話は半信半疑です。ただ、言葉には不思議な力があるということは信じています。言葉とは恐ろしいもので、その言葉ひとつで、人を勇気づけることも、絶望に追いやることもできます。友達の一言で、崩れそうになる自分が支えられることもあれば、逆に暗闇の中に落されてしまうこともあります。

普段何気なく口につく言葉が、毒気たっぷりになっていることはありませんか？

「ふざけんな」「うぜーよ」「めんどくせー」ets.

実は、怒りで口をつく「言葉づかい」そのものが、ストレスを増やしている可能性があるのです。嫌な気持ちになったとき、その気持ちを吐き出したいのは自然な反応ですが、最初に口をつく言葉が「ふざけんな」「うぜーよ」「めんどくせー」といった言葉なら、それだけでは終わりません。その「毒気たっぷりの言葉」が呼び水となって、頭の中には攻撃的、否定的な言葉であふれ、止められなくなってしまいます。こうした言葉を使った後、いらだちは何倍にも膨らみます。でも、その毒気たっぷりの言葉は、本当にあなたの気持ちに近い言葉なのでしょうか？

言い方一つで絆(きずな)は簡単に壊れてしまうものです。

奈良県の春日大社の宮司である葉室頼昭さんは、「昔から言葉には霊力があるんです。だからいい言葉を使えば幸せになるし、悪い言葉を使えば不幸がやってくる」と言っています。

人それぞれ、言葉の癖があると言います。「出来ない、嫌だ、ダメ」などのマイナス言葉ばかりの人。「楽しい、ツイてる、幸せ」などのプラス言葉が多い人。不思議なことに、プラスの言葉をたくさん言っていると、また言いたくなるような幸せな事がたくさん起きるそうです。何回も口に出して言っていると叶ってしまうという、目には見えない幸運の法則です。もちろんですが、マイナス言葉ばかり言っていると逆のことが起こります。

「いい言葉を使えば幸せになる。悪い言葉を使えば不幸がやってくる。」

サボテン実験。科学的な真偽は分かりませんが、自覚していきたいものです。

3年生の修学旅行 1・2年生の校外学習の様子です

